



薬局ポートレート

vol.49

たけの調剤薬局

(茨城県結城郡八千代町)

編集部



服薬は介護の一部分

たけの調剤薬局は5人の薬剤師が勤務し、積極的に訪問薬剤管理指導を行っている。現在、月に約30人の患者宅を訪問する。薬剤師・事務員は全員、福祉用具専門相談員の資格を取得し、患者に合ったきめの細かいアドバイスを行っている。薬剤師のうち2人は介護支援専門員の資格を持っており、患者のケアプランの作成を行うなど仕事の幅は広い。2000年に介護保険制度が始まってから約7年が経過したが、施行後数

年は制度の理解が乏しく利用者も少なかったという。「介護保険制度とはどういうものなのか、どのようなサービスを受けられるのかなど多くの人に説明しました」と薬局長の中曽根英明氏。口コミなどから少しずつ介護保険の利用者が増加した。

中曽根氏はケアプラン作成を進めるうちに、「家庭の事情を知ることが最も大切。服薬は介護の一部分でしかない」と感じ、薬局で服薬指導を行う時も患者がどのような生活をしているのか重視するようになった。十分な聞き取りにより患者の生活が

見えてくることで具体的なアドバイスが可能となる。例えば、昼は寝ていることが多く、薬を飲み忘れるという患者の訴えを医師にフィードバックした結果、1日3回から2回へと処方変更された。その後は薬を飲み忘れることがなくなり、コンプライアンスの向上につながった。



工夫を凝らす薬剤管理

薬局窓口ではしっかりしているように見える高齢の患者も自宅での薬剤管理が正確にできていないとは限らない。脳梗塞やアルツハイマーなどの持病がある患者も多く、患者宅を



散剤を入れる瓶には、薬の箱から切り取ったロゴを貼り付けた。字の形やデザインが違うため、取り違いの防止に役立つ

